

関東信越税理士会新発田支部長賞

正しく税金を使うために私達ができること

胎内市立 中条中学校 二年 本 間 唯 花 さん

私が考える最初の税金のイメージは、消費税しかありませんでした。今回税金について学び、いろいろな種類があることを知りました。調べていくと国税と地方税がありました。両親がよく飲んでいるお酒にも税金がかかっていることや、自動車にも税金がかかること、他にも住民税やタバコ税、所得税などがありとても身近にありました。

払った税金は教育や医療、年金に使われています。私達の地域は大都市に比べて、病院の数が多くありません。特に夜間の受け入れができる病院は限られています。数年前に父が腹痛を訴えて夜間の病院受診をしましたが、そこでは対応しきれずに県立病院に救急搬送されました。その救急搬送をしてくれた救急車も、受け入れてくれた県立病院を財源とするものです。三次救急を受け持つ県立病院は、私達の命の砦ともいえます。このことを調べてみて私は税金を納めることは自分の命を守ることに繋がると思いました。

また八月にあった東北・北陸大水害で、今も通る道や知っている道が冠水している映像を見て災害を身近に感じ、怖くなりました。災害復興にも税金が使われていて、仮設住宅、道路の補修、がれきの撤去などがあります。もし税金がなかったら、生活の再建が出来なくなります。私になんとかしかなかった税金は色々な形で自分達の生活を支えてくれているものでした。

税金は大切です。財源は限られているので、誰かが私欲で使ってはいけないと思いました。それを家族に聞いてみると国の税金の使われ方をチェックする会計検査院という機関があることを教えてもらいました。伯父がそこで勤務しているので、話を聞きました。仕事の内容は、税金で政策や企画を計画したときに失敗してしまうと税金の無駄使いになってしまいます。その失敗を見つけるのが会計検査院の仕事だそうです。会計検査院が指摘した企画が書いてある検査報告を見せてもらいました。たくさんあるその報告の中には、新型コロナウイルス感染症対策の予算や雇用助成金についての問題などニュースで見るとような内容がありました。一つの企画や政策で何億やそれ以上の金額が動いているので、チェック機能を使って私達が安心して暮らせる正しい使い方をしてほしいです。そのためにも私達一人一人が積極的に関心を持つことが必要だと思います。

関心を持ち続けるためにも、私は税金について学び続けたいです。